

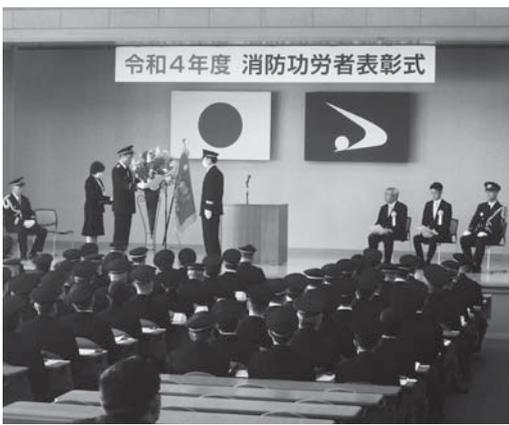


令和四年度 秋田県消防功労者表彰式



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 高橋 正尚  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>



消防庁長官表彰

令和四年度秋田県消防功労者表彰式が秋田県及び秋田県消防協会の主催により、三月二日(水)に秋田県庁第二庁舎で開催され、受章者など約一三〇人が出席しました。式典では、消防庁長官表彰、秋田県知事表彰、日本消防協会定例表彰が伝達され、最後に受章者を代表して伊藤力潟上市消防団副団長が謝辞を述べました。皆様、誠におめでとうございます。



伊藤副団長代表謝辞



日本消防協会会長表彰

二〇二三年度全国統一防火標語  
火を消して  
不安を消して  
つなぐ未来



右から小坂町消防団亀田副団長、澤口団長、美郷町消防団高橋団長

特別表彰「まとい」受章  
特別功労章受章  
三月三日(金)ニッシーホール(東京都港区)において、第七五回日本消防協会定例表彰式が行われ、小坂町消防団が特別表彰「まとい」を受章しました。本県では、平成二五年度に大仙市消防団が受章して以来九年ぶりです。また、秋田県消防協会長で美郷町消防団高橋正尚団長が特別功労章を受章しました。皆様、誠におめでとうございます。

# 消防庁長官表彰

## ◆功 勞 章 (1名)

大館市消防団 団 長 齋 藤 勉

## ◆永年勤続功労章 (72名)

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	伊 藤 清	秋田市消防本部	消 防 監	伊 藤 博 之
秋田市消防本部	消防司令長	阿 部 憲 悦	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	池 田 透
能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	今 野 嘉 勝	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	小 野 悟
横手市消防本部	消防司令長	木 島 秀 明	秋田市消防本部	消防司令長	木 山 強
由利本荘市消防本部	消防司令長	小 室 力	大館市消防本部	消防司令長	佐々木 洋 一
由利本荘市消防本部	消防司令長	佐 藤 勝 則	横手市消防本部	消防司令長	高 田 俊 之
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	沼 倉 明	男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消防司令長	原 田 正 仁
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	山 本 啓 彦	にかほ市消防本部	消 防 司 令	齋 藤 憲 一
湖東地区消防本部	消 防 司 令	齋 藤 直 樹	北秋田市消防本部	消 防 司 令	山 田 昇
能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令補	木 元 浩 行			

八峰町消防団	団 長	笹 村 清 幸	秋田市消防団	団 長	永 澤 靖 雄
潟上市消防団	副 団 長	伊 藤 力	北秋田市消防団	副 団 長	木 村 謙 一
大館市消防団	副 団 長	佐 藤 良 二	能代市消防団	副 団 長	畠 山 一 昭
北秋田市消防団	副 団 長	福 岡 仁	井川町消防団	副 団 長	二 田 一
鹿角市消防団	分 団 長	青 山 幸 喜	小坂町消防団	分 団 長	秋 本 勇 美
横手市消防団	分 団 長	奥 山 裕 寸	横手市消防団	分 団 長	柿 崎 豊
秋田市消防団	分 団 長	鎌 田 正 博	大仙市消防団	分 団 長	川 原 敏
鹿角市消防団	分 団 長	木 村 隆 利	由利本荘市消防団	分 団 長	木 村 伸 英
仙北市消防団	分 団 長	草 薨 晃	仙北市消防団	分 団 長	小 西 芳 雄
八郎潟町消防団	分 団 長	金 昭 彦	由利本荘市消防団	分 団 長	今 野 強
横手市消防団	分 団 長	近 寿	五城目町消防団	分 団 長	佐 川 誠
東成瀬村消防団	分 団 長	佐々木 芳	男鹿市消防団	分 団 長	佐 藤 靖
大館市消防団	分 団 長	佐 藤 善 隆	大仙市消防団	分 団 長	佐 原 吉 春
北秋田市消防団	分 団 長	柴 田 昭 夫	能代市消防団	分 団 長	杉 渕 宏
秋田市消防団	分 団 長	鈴 木 清 博	横手市消防団	分 団 長	鈴 木 浩
大潟村消防団	分 団 長	鈴 木 太	羽後町消防団	分 団 長	瀬 川 隆
大仙市消防団	分 団 長	高 橋 雅 彦	秋田市消防団	分 団 長	田 中 重 之
鹿角市消防団	分 団 長	中 村 実	横手市消防団	分 団 長	中 山 清 悦
美郷町消防団	分 団 長	畠 山 貞 義	男鹿市消防団	分 団 長	原 田 裕 親
秋田市消防団	分 団 長	古 井 啓 司	藤里町消防団	分 団 長	細 田 一 幸
にかほ市消防団	分 団 長	三 浦 仁	三種町消防団	分 団 長	三 浦 摩 壽 雄
由利本荘市消防団	分 団 長	村 上 康 浩	男鹿市消防団	分 団 長	柳 原 善 広
秋田市消防団	分 団 長	山 田 雄 造	横手市消防団	分 団 長	米 澤 久
大館市消防団	副 分 団 長	阿 部 司	湯沢市消防団	副 分 団 長	押 切 吉 明
由利本荘市消防団	副 分 団 長	金 政 途	由利本荘市消防団	副 分 団 長	東 海 林 一
大館市消防団	副 分 団 長	杉 田 乾 一 郎	大仙市消防団	副 分 団 長	畠 本 久 男
大仙市消防団	副 分 団 長	古 屋 初			

# 秋田県知事表彰

## ◆無火災表彰 (1町1村)

八郎潟町 東成瀬村

# 日本消防協会会長表彰

## ◆特別表彰「まとい」 (1 消防団)

小坂町消防団

## ◆特別功労章 (1 名)

秋田県消防協会会長 美郷町消防団団長 高 橋 正 尚

## ◆優良消防団 (表彰旗) (1 消防団)

湯沢市消防団

## ◆優良消防団 (竿頭綬) (3 消防団)

三種町消防団 男鹿市消防団 美郷町消防団

## ◆功績章 (18名)

鹿角市消防団	副 団 長	洪 谷 照 幸	大館市消防団	副 団 長	佐 藤 憲 一
北秋田市消防団	副 団 長	長 岐 邦 雄	能代市消防団	団 長	渡 邊 正 人
三種町消防団	副 団 長	板 倉 吉 孝	男鹿市消防団	団 長	齊 藤 英 一
大瀧村消防団	団 長	松 橋 稔	秋田市消防本部	消防司令長	安 田 勝 也
秋田市消防本部	消防司令長	齊 藤 広 幸	由利本荘市消防団	副 団 長	東 海 林 優
にかほ市消防団	分 団 長	三 浦 仁	美郷町消防団	副 団 長	照 井 正 明
大仙市消防団	副 団 長	田 村 健 郎	横手市消防団	分 団 長	柴 田 克 弘
横手市消防団	分 団 長	佐 藤 洋 幸	横手市消防団	部 長	伊 勢 睦 子
羽後町消防団	分 団 長	大 庭 久 志	湯沢市消防団	副 分 団 長	押 切 吉 明

## ◆精績章 (44名)

鹿角市消防団	分 団 長	田 中 豊	小坂町消防団	分 団 長	秋 本 勇 美
大館市消防団	副 団 長	鳴 海 正 春	大館市消防団	分 団 長	本 間 光 仁
北秋田市消防団	副 団 長	木 村 謙 一	北秋田市消防団	分 団 長	柴 田 昭 夫
上小阿仁村消防団	分 団 長	田 中 寿	能代市消防団	分 団 長	杉 渕 宏
能代市消防団	分 団 長	大 谷 孝	能代市消防団	分 団 長	庄 内 道 雄
三種町消防団	団 員	嶋 田 和 子	八峰町消防団	団 長	笹 村 清 幸
男鹿市消防団	副 団 長	杉 本 一 敏	潟上市消防団	副 団 長	伊 藤 力
八郎瀧町消防団	分 団 長	金 昭 彦	大瀧村消防団	分 団 長	工 藤 和 博
潟上市消防団	部 長	伊 藤 由 香 里	秋田市消防本部	消防司令長	武 藤 学
秋田市消防本部	消防司令長	若 狭 政 勝	秋田市消防団	分 団 長	鈴 木 功
秋田市消防団	分 団 長	鎌 田 一	秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 満
秋田市消防団	班 長	松 本 恵	由利本荘市消防団	副 分 団 長	金 政 途
由利本荘市消防団	班 長	田 口 保 信	由利本荘市消防団	分 団 長	遠 藤 勝
由利本荘市消防団	班 長	住 吉 伸 哉	にかほ市消防団	分 団 長	佐 々 木 剣
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	三 川 正 人	大仙市消防団	副 団 長	高 橋 和 美
美郷町消防団	分 団 長	佐 々 木 吉 則	仙北市消防団	分 団 長	櫻 田 英 喜
大仙市消防団	副 団 長	加 藤 元	横手市消防団	分 団 長	小 田 嶋 敏 夫
横手市消防団	分 団 長	佐 藤 勝	横手市消防団	分 団 長	鈴 木 浩
横手市消防団	分 団 長	高 橋 剛	横手市消防団	分 団 長	佐 藤 賢 一
横手市消防団	分 団 長	高 橋 千 登 勢	東成瀬村消防団	分 団 長	高 橋 広 美
湯沢市消防団	分 団 長	高 橋 喜 信	湯沢市消防団	分 団 長	石 田 均
羽後町消防団	分 団 長	菊 地 貞 一	湯沢市消防団	分 団 長	高 山 一 夫

防災活動車が交付されました

日本消防協会から大館市消防団に福祉増進事業による車両が交付され、同消防団から御礼のメッセージが寄せられました。

災害が多様化し、消防団もあらゆる現場での対応が求められるなか、四輪駆動の活動車の交付をしていただき、心より感謝申し上げます。

この車両を活用させていただき、今後も消防団活動の充実に努めてまいります。

大館市消防団 団長 齋藤 勉



第三回若手消防団員

交流会を開催しました

第三回若手消防団員交流会が二月四日(土)、一二消防団から一七名、第一期と第二期の若手消防団員活性化推進チームのメンバー等一一名が参加し、イヤタカで開催されました。

交流会では第一期チームが、平成三〇年度から令和三年度までの取組を報告した後、四グループに分かれて、①SNSによる広報の運用 ②消防団活動に感じる課題 ③効率的な知識と技術の習得というテーマでディスカッションを行いました。

参加者からは、他消防団との違いや共通する課題などを率直に意見交換できて、とても有意義な機会だったという感想が多く聞かれました。



高橋充秀リーダーあいさつ

第四六回

消防職員意見発表秋田県大会

秋田県消防長会

第四六回消防職員意見発表秋田県大会が二月一〇日(金)ホテルメトロポリタン秋田で行われ、最優秀賞一名、優秀賞二名が選ばれました。

本稿では、最優秀賞に輝いた千葉将太さんの意見を紹介します。

■最優秀賞

大曲仙北広域消防本部

消防副士長 千葉 将太

■優秀賞

能代山本消防本部

消防士長 佐々木 和志

横手市消防本部

消防副士長 高橋 聖哉

心を救う言葉

大曲仙北広域消防本部

千葉 将太

たった一言で嬉しくなったり、悲しくなったり、怒ったり、笑ったり。言葉で心が動いた経験、皆さんはありませんか。

「そんなことも分からないんじゃないや話にならねえぞ。しっかりやれよ。」

それは訓練中の出来事でした。先輩から向けられた愛の鞭。張りつめる空気。動揺する私。焦りと緊張で頭が真っ白になり、その後は何をやってもミスばかりでした。



グループごとの発表



グループディスカッション

訓練終了後、自分のふがいなさで  
いっばいだった私に、ある上司が声  
をかけてくれました。

「あれは期待を込めての檄だから気  
にすんな。俺にできることがあれば  
何でも言えよ。成長して見返してや  
ろうぜ。」

その言葉は、暗闇で沈んでいた私  
の心を、一瞬で救い出してくれまし  
た。自分を見てくれる上司がいる。さ  
つきまで悲観的になっていた私の心  
は一転、「やってやる。」成長してみ  
せる。」と驚くほど前向きになりまし  
た。

それから数年後、私は救急救命士  
になりました。あの日感じた言葉の  
力。救命処置だけでなく「言葉」で  
も苦しむ人を救いたい。そんな救命  
士像を思い描くようになりました。

「もう少しで病院ですよ。大丈夫で  
すか。苦しきくないですか。痛くない  
ですか。」

「分かった。分かった。大丈夫だか  
ら。」

気遣いが空回りしてお節介になっ  
たこともありましたが、経験を重ね、  
少しずつ相手の気持ちをおくみ取った  
言葉を選べるようになりました。

ある日、木材運搬車が横転する事  
故が発生。四〇代男性が下半身を挟  
まれ脱出不能。ドクターカー、ドク  
ターヘリへ協力を依頼。しかし、救  
助活動は難航。加えて、当日は真夏  
日。灼熱の車内。衰弱していく男性。

救急隊として現場にいた私は、声を  
かけ続けました。

「少しずつ救出に向かってます  
よ。」

「私たちが絶対に助けます。」  
「お医者さんも救急隊も、みんなあ  
なたの近くに居ますよ。もう少し一  
緒に頑張りましょう。」

必死の救助活動の結果、六時間後、  
無事救出することができました。

後日、その男性からこんなお手紙  
をいただきました。

「あのときはダメだと思って、自分  
では諦めたんですけども、救出の  
際に励ましてもらったり、色々声を  
掛けてもらったりして、頑張ること  
ができました。本当にありがとうございます  
ございました。」

男性の折れかけた心は、私の言葉  
で支えられていたのでした。言葉は  
人を、心を、命を救える。そう思え  
た出来事でした。痛みや苦しみを  
おもんぱかり、深く、優しく、温かい  
言葉で傷病者の心を救う。言葉一つ  
で励ますことができる。言葉には計  
り知れないパワーがあるのです。

同僚や後輩に言葉の力を伝えてい  
くこと。傷病者の心に寄り添った言  
葉を伝えること。それが安心して暮  
らせる街へつながっていくと私は信  
じています。助けを求めるあなたの  
元へ駆けつけるのは、心を救う消防  
士です。

### 意見発表のテーマと発表者名

- あなたの心に届けたい  
湖東地区消防本部 白川 雅 寛
- 情報を制するものは災害を制す  
由利本荘市消防本部 菅 原 康 平
- 小学生の救命救急  
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 武 田 俊 高
- 0歳から参加する救命講習  
秋田市消防本部 木 内 絵 美
- 我が家の消防計画  
男鹿地区消防一部事務組合消防本部 進 藤 奎 亜
- 寄り添った話し方を  
北秋田市消防本部 後 藤 涼
- 心を救う言葉  
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 千 葉 将 太
- 最高の備えとは何か  
鹿角広域行政組合消防本部 石 坂 賢 太
- シャッターチャンス  
能代山本広域市町村圏組合消防本部 佐々木 和 志
- 「消防操法大会」に改革を  
横手市消防本部 高 橋 聖 哉
- 救命率向上のために  
五城目町消防本部 舘 岡 拓 海
- 小さな一歩、大きな未来  
大館市消防本部 小 貫 慧 太
- 新たな救命講習の必要性  
にかほ市消防本部 池 田 享 平



千葉将太さん(最優秀賞)

「消防団加入促進モデル事業」  
を実施します

消防団員の減少や高齢化に伴い地域防災力の低下が危惧されるなか、団員の加入促進につなげるため、県は、令和五年度新規事業として消防団加入促進モデル事業を実施します。この事業では、次の三つの行事を行います。

①市町村が実施する消防団活動の体験を伴うイベントに対する支援

防災キャンプ等のイベントに合わせて、来場者が消防団活動を体験できるコーナーを設置するもの

②若手消防団員や女性消防団員によるワークショップの開催

消防団に係る課題をテーマとした意見交換を県内三カ所で行う。

③今後の消防団のあり方、役割を考えるシンポジウムの開催

①と②を踏まえ、講演やパネルディスカッションを行い、消防団関係者の認識共有を図る。

①は、実施する市町村に対して県が補助金を交付します。②と③は、秋田県消防協会が県から委託を受けて実施します。

また、従来の女性消防団ネットワーク会議と若手消防団員交流会は、シンポジウムと同時開催となります。

◆ 消防団員研修 ◆

秋田県消防学校

消防団名	階 級	氏 名
鹿 角 市	団 員	海 沼 和 宏
北 秋 田 市	団 員	津 谷 高 志
八 郎 潟 町	団 員	渡 部 浩 信
秋 田 市	団 員	斉 藤 昂 太
秋 田 市	団 員	黒 崎 翔 太
秋 田 市	団 員	福 島 琢 巳
秋 田 市	団 員	齊 藤 隆 祥
秋 田 市	団 員	沖 村 祐 太 郎
由 利 本 荘 市	団 員	銭 谷 健
仙 北 市	団 員	高 橋 文 哉
湯 沢 市	団 員	菊 地 智 洋

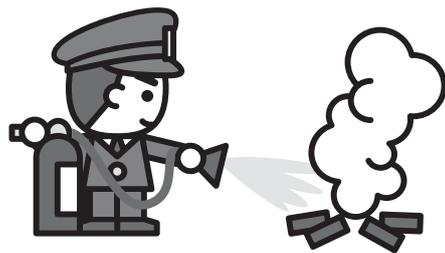
第67期基礎教育

教育期間 令和5年3月11日(土)～3月12日(日)

入校者数 11人 (7消防団)

対 象 者 入団して概ね3年未満の消防団員

集合写真

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター  
消防被服全般  
秋 田 県 代 理 店

**株式会社 高 義 商 会**

(営業種目) { トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
火災報知器各種  
消 火 器 各 種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

**株式会社 夕 力 吉**

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880  
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | 消防設備保守点検  
トーハツポンプ | キンパイホース  
各種消防機械器具 | 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)

◆ 消 防 団 員 研 修 ◆

秋田県消防学校

第5期幹部教育指揮幹部科現場指揮課程			第8期幹部教育指揮幹部科分団指揮課程		
令和5年3月18日(土)～3月19日(日)			教育期間	令和5年3月4日(土)～3月5日(日)	
22人(8消防団)			入校者数	26人(9消防団)	
部長又は部長と同等の実務経験を有する者			対象者	分団長、副分団長の階級にある者	
			集合写真		
消防団名	階級	氏名		消防団名	階級
鹿角市	部長	石坂真貴	鹿角市	部長	賀川孝男
北秋田市	班長	奈良田大輔	大館市	分団長	畠山幸夫
男鹿市	部長	荒木聡	北秋田市	副分団長	辻茂幸
秋田市	部長	斎藤弘美	秋田市	分団長	保坂一
秋田市	部長	佐々木一直	秋田市	分団長	柴田力
秋田市	部長	高田達雄	秋田市	分団長	鈴木秋一
秋田市	部長	佐藤光康	秋田市	副分団長	佐藤直久
由利本荘市	副分団長	熊谷忍	秋田市	分団長	佐藤満
由利本荘市	副分団長	佐藤衛	由利本荘市	副分団長	須田充
由利本荘市	部長	菊地三男	由利本荘市	副分団長	工藤正一
由利本荘市	部長	遠藤育英	由利本荘市	副分団長	熊谷忍
由利本荘市	部長	矢野和博	由利本荘市	副分団長	加川洋
由利本荘市	班長	阿部拓也	由利本荘市	副分団長	村上康浩
由利本荘市	班長	佐藤幸治	にかほ市	分団長	齊藤猛
由利本荘市	班長	猪股光弘	大仙市	分団長	小松誠
にかほ市	班長	佐藤貴広	横手市	分団長	佐藤勲
大仙市	部長	進藤正	横手市	副分団長	佐藤義雄
湯沢市	部長	佐藤三千広	横手市	分団長	高橋良昭
湯沢市	部長	村上聡	横手市	分団長	高階寿
湯沢市	部長	高橋一幸	横手市	副分団長	伊藤寿人
湯沢市	班長	小野垣昭治	湯沢市	分団長	石成寿
湯沢市	班長	阿部勇一	湯沢市	副分団長	高橋宗男
			湯沢市	副分団長	由利克幸
			湯沢市	副分団長	佐藤俊美
			湯沢市	副分団長	藤原司
			湯沢市	副分団長	伊藤文雄

支部情報アラカルト

鹿角支部消防団員

教養研修会を実施しました

三月五日(日)、鹿角広域行政組合消防庁舎において、令和四年度消防団員教養研修会を行いました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、参加団員数に制限をかけての開催となりました。

当支部では、操法訓練大会、春秋の火災予防週間に伴う火災想定訓練のほかに、教養訓練として「消防団サポートブック」を使用した訓練を行っています。

本研修会は、訓練礼式やホース展開及び収納要領、発電機、はしごの取



扱要領と基本動作の確認と、反復訓練を行いました。少ない人数ながらも活気ある訓練ができました。

支部長から、この貴重な時間を有意義に過ごし、同僚団員、後輩団員にも伝達し、今後の消防団活動にいかしてほしいと話がありました。

全国的に消防団員数の不足に伴い、消防力の低下が危惧されています。多様化する災害に迅速・的確に対応できるよう、日ごろから消防職員と共に技術の向上に努めなければなりません。しかし、本業が多忙なことなどの理由により、熱意はあっても訓練に参加することができない団



員もいます。多くの団員が参加しやすい訓練の方法について日々検討しています。



(情報提供 鹿角支部)

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和 5 年		令和 4 年			同期比較	
	3 月	累計	3 月	累計	年計	3 月	累計
建 物	24	57	15	47	165	9	10
林 野	5	5	1	1	27	4	4
車 輛	4	9	2	7	33	2	2
その他	10	13	3	10	89	7	3
合 計	43	84	21	65	314	22	19
死者数	6	8	1	8	26	5	0
負傷者数	14	21	4	14	36	10	7

モリタ消防ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種消火器

シバラポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

設 備  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)  
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651